



◇ KSBB-AFOB Conference 2025に参加して◇

(月桂冠株式会社総合研究所) 根来 宏明

2025年9月23日(火)～27日(土)、韓国生物工学会(Korean Society for Biotechnology and Bioengineering; KSBB)の年次大会とAsian Federation of Biotechnology(AFOB)の隔年大会であるThe 17th Asian Congress on Biotechnology(ACB2025)の共催として、KSBB-AFOB Conference 2025が韓国・仁川広域市のグランドハイアット仁川にて開催されました。

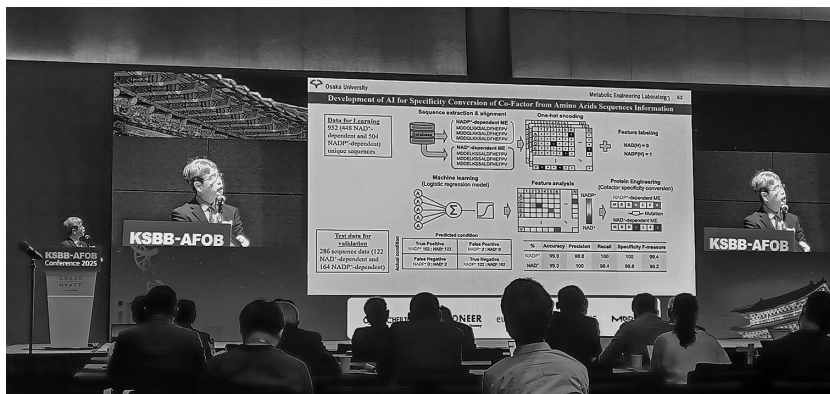
日本生物工学会(SBJ)からは、清水浩会長(大阪大学)、招待講演者として田中祐圭先生(2024年度生物学奨励賞(斎藤賞)・東京科学大学)、中山俊一先生(2024年度生物学奨励賞(江田賞)・東京農業大学)、筆者(2020年度生物学奨励賞(江田賞)・月桂冠)の合計4名が招待されました。

KSBB年次大会は今回で40周年記念ということもあり、5日間にわたる盛大な合同大会となりました。初日はDivision Sessionという口頭発表から大会が始まりました。2～4日目は12会場を使用して、シンポジウムとポスターセッションが並列開催され、さらに参加者全員が一同に会するPlenary Lectureでは3日間で計9名の世界的に著名な先生方が登壇されました。清水浩会長は4日目のPlenary Lectureに登壇され、“Metabolic Engineering Based on In silico Design and Experimental Analysis of Metabolic Pathways”と題した講演を行われました。田中祐圭先生は“Advancing Analytical Methods for Membrane Curvature-Sensing Proteins and Peptide-Mediated Gold Nanoparticle Synthesis”、中山俊一先生は“Biochemical and Genetic Studies on the Elucidation of the Characterization of Sake Yeast”、筆者は“Genetic Analysis of High Malate-producing Sake Yeasts and Its Applications”という題でシンポジウムにて講演いたしました。最終日の5日目にはExcursion Tourが催され、筆者は残念ながら日程の都合上参加できませんでしたが、韓国を代表するバイオテクノロジー関連施設の見学会が実施されました。また、会場内の企業展示ブースを回ってスタンプを貯めると抽選でiPadやNintendo Switch 2が当たるイベントが開催されるなど、参加者が楽しめるような工夫が数多く設けられていました。

2日目の夜にはBanquet、3日目の夜にはSpecial Symposium & Gala Dinnerと、大会参加者間の交流を図る催しが企画されました。Gala Dinnerでは清水浩会長が挨拶をされました。さらに4日目の朝には、KSBB-SBJ Breakfast Meetingと題した朝食会が開催され、会長Dong-Myung Kim教授をはじめとするKSBB理事の皆様とSBJからの招待者4名が参加し、終始和やかな雰囲気の中で懇親を深めることができました。

筆者はKSBBへの参加は初めてであり、食品や醸造分野の発表は多くないように思われたため、自身の発表(醸造分野)が関心を持って聴いてもらえるのか不安に感じていました。しかしながら、質疑応答では複数の方から関心を持って質問を頂き、韓国の大学教授より「日本酒をよく飲むので研究発表を聴けて良かった」というお言葉も頂戴し、たいへん嬉しく感じるとともに、国際交流の機会に参加する意義を肌で感じることができました。

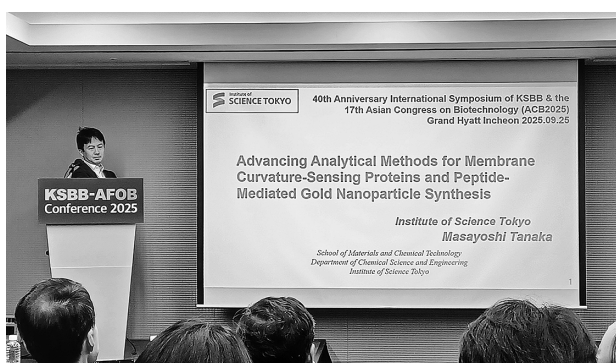
最後になりましたが、大会の開催にご尽力なされたKSBBの先生方、参加をご支援頂いたSBJの先生方および事務局の皆様へ、深く御礼申し上げます。



Plenary Lectureで発表される清水先生



Gala Dinnerで挨拶される清水先生



シンポジウムで発表される田中先生



シンポジウムで発表される中山先生



シンポジウムで発表する筆者



BanquetにてSBJ派遣団



Breakfast MeetingにてKSBBの先生方と



KSBBおよびSBJ事務局の皆様